

# 新設インド工科大学(IIT)への協力

## 1. 新設IITへの協力の経緯

●インド工科大学(IIT)は、工学と科学技術の分野でインド最高峰、世界的にも有名な国立の高等教育機関。国際的に活躍する優秀な人材を多く輩出。現在、インド全国に7校が設置されている。インド政府は更に8校のIITを新設予定であり、その内1校につき、日本からの協力を要請。

●07年8月、日印両首脳は新規IITの設立における可能な協力を検討するための「作業部会」の設置に合意。これまでに、2回の日印合同作業部会(東京、デリー)及びワークショップ(東京)を開催。作業部会は、今次首脳会談までに、両首脳に進捗を報告することとなっている。

## 2. 作業部会報告書の概要

●作業部会は、これまで2回の作業部会会合(本年2月、於:東京、5月於:デリー)及びワークショップ(6月、於:東京)を踏まえ、以下の通り新規IIT設立に対する日印協力は可能であるとする。

(1)目標:①日印協力のシンボルとなる一流の教育機関を設立する。

②日印双方にとって有益かつ補完的な協力とする。

(2)設置場所:ハイデラバードに設立されるIITを協力対象とする。

(3)協力期間:長期的視野に基づく協力とすべき(10年間程度)。

(4)協力分野:日本の強みを生かせる分野として、以下の5分野を選定。

- ①環境・エネルギー
- ②デジタル・コミュニケーション
- ③デザイン&マニュファクチャリング
- ④ナノテク・ナノサイエンス
- ⑤都市工学

(5)協力の重点:大学院教育に特色のある学校とするために、日本からの知的貢献は、特に共同研究や教員・研究者の派遣を通じた、上記5分野における大学院レベルの能力向上に重点が置かれるべき。日本式経営に関する講座設置も有益。また、日本語や日本文化に関する教育も重要。

(6)具体的な協力手段

●教員派遣:カリキュラム作成、教員養成、共同研究等を目的として、日本側大学教員の短期・中期の派遣がなされ得る。

●研究者派遣:相互に関心を有する分野における特別講義のため、企業所属の研究者が派遣され得る。この点に関し、日立製作所は本年10月から日本の先端技術に関する連続講義を開始。

●IIT教員・学生の招聘:日本側は、日本への留学や日本企業でのインターンを希望するIITハイデラバード校の教員・学生を歓迎。日本の大学・企業は積極的に受入を行うべき。

●施設・機材:日印の大学関係者は望ましい施設・機材につき協議し、可能な限りODAの活用を検討するよう両国の関係当局に要請。詳細は関係者により更に協議される。

●日本語教育:IITハイデラバード校は日本語講座を設立し得る。日本は可能な支援を検討する。

